

第5回 千代田区まちづくりプラットフォームのあり方 検討会における委員指摘対応表

1 まちづくりプラットフォームのあり方関連

ご意見	委員	⇒事務局の回答 ■対応方針	該当 ページ
○地域や行政といった立場によって価値観や考え方が様々であるが、地域や行政に関わらず、地域住民の話をしっかりと聞くことが重要であるという共通認識を得た。また、利害関係にない第三者（住民ではない等）についても聞くことができる機会があることが重要である。	グループ①	■p13 の合意形成に向けた要件「開かれた場づくり」にて話を聞くことの重要性を加筆	P13-①
○資料4の25ページに掲載のある仕組みの図解は、再開発のプロジェクトを進めていく仕組みに見えてしまう。最初から型を構築して進めていくのではなく、まちづくりに関して議論されたことがフィードバックされて改善していく仕組みとなることが大事である。	グループ①	■p16 の検討プロセス例にて、フィードバックされながら進む旨を加筆	P22-①
○まちづくり素案自体の検証プロセスが明記されていないので、冒頭に明示した方が良い。	日永委員		
○千代田区は大学が多数あり、知見が蓄積されているため、まちづくりに反映していくことが重要	グループ①	■次年度以降での具体的な組織体制と併せて、ご意見を踏まえて検討	-
○人材育成において、人材の発掘・育成にはまちみらい千代田の機能を拡充することが良いのではないか。	グループ②		
○連携方策は、エリアマネジメント団体のような組織と連携するのが良いのではないか。	グループ②		
○説明者はデータを示しながら伝えていくとともに、聞き手の意見を聞くことが大切であるという意見が挙がった。	グループ③	■p14 の合意形成に向けた要件の「(4)：情報の共有を図る」に加筆	P14-①
○企業に勤める方の意見も収集することができると良いという補足があった。	グループ③	■p13 の合意形成に向けた要件の「(2)：多様な関係者が参画できるようにする」に加筆	P13-②
○初期にどういう支援がなされるのかより一段具体的に深ぼることや、サイレントマジョリティの意見を聞くことが大事ではないか。	グループ③	■P13 にサイレントマジョリティの意見を引き出すことが重要であることを記載	P13-③
○具体的な支援のイメージについて、誰が見てもわかるものにするために、ペルソナ分析などを用いて具体的な支援プロセスを示し、誰にでも、あらゆる世代からも関心をもってもらうような取り組みができるのではないか。	グループ③	■次年度以降での具体的な組織体制と併せて、ご意見を踏まえて検討	-
○あり方素案の記載内容は、行政の固い言葉だけではなく、キャッチーな表現があっても良いのではないか。	グループ③	■次年度以降での具体的な組織体制と併せて、ご意見を踏まえて検討	-

ご意見	委員	⇒事務局の回答 ■対応方針	該当ページ
○まちづくりにおけるツールのお話をしているため、どう使うか（How）だけでなく、より良いまちを作るために何が必要か（What）とかなぜまちづくりを行うのか（Why）についても議論が深められると良い。	グループ③	■次年度以降での具体的な組織体制と併せて、ご意見を踏まえて検討	-
○本検討会は、まちづくりにおけるツールとしての組織の議論を深めてきたが、出来上がった組織について、当初の目的に限定したツールとして終わらせるのではなく、地域のあるべき姿を引き出していくような場にするという位置付けをもっと強調する必要がある。	出口委員長		
○千代田区は経済的には余裕があるかもしれないが、一地方自治体の千代田区として、どのようにしたら自分たちが居心地の良いまちになるか、千代田区に行きたいと思うようなまちになるかを、このプラットフォームのあり方検討会で議論していければと良いと思う。	糸井委員	■地域まちづくり課と今後の進め方について協議する	-
○それぞれの地域で実現するツールがまちづくりプラットフォームであり、さまざまな想いを形にしていくようなものとして機能していくと良い。	内海委員	■P4の「プラットフォームとは」に加筆	P4-①
○財源に関する話題があらゆる方向から出てくると思うため、他自治体における事例の整理をしてほしい。千代田区でもふるさと納税の活用について検討ができると良い。	出口委員長	■次年度以降での具体的な組織体制と併せて、資金面についても検討	-
○本検討会を契機に、民間の力を活用できるような制度を東京都知事とか23区長で足並みを揃えて議論を展開して欲しい。			

2 実証実験関連

指摘	委員	⇒事務局の回答 ■対応方針
○協議会やサポーターズのメンバーの選定における透明性が大事である。	グループ①	■本実証実験では、検討会メンバーの出口先生、杉崎先生による第3者からの選定を実施
○意見交換会の周知は、地域では口コミが大きな影響を持っている。	グループ①	■意見交換会の周知にあたり、個別ヒアリングの対象者に対して、関係者への声がけを依頼
○定量的データからの情報と個別ヒアリングの意見にギャップがあり、区民に情報が不足している。	グループ①	■意見交換会では、神保町の現状について説明する時間を確保
○意見交換会では、価値観や神保町に対するイメージなど形として見えないものも把握していくことが重要である。	グループ①	■意見交換会のテーマ設定時に考慮しながら検討
○防災など共通の話題をテーマとした議論をすること、これからどういうイメージが神保町のまちにふさわしいかを議論することが良いのではないか。	グループ②	
○インクルーシブ（包括的）な意見の収集について議論をし、例えば、障害者や子どもがいる家庭について、実証実験の視点に加えてほしい。	グループ②	
○実証実験自体がワクワクするテーマであると興味深いものになり、例えば、未来の神保町地域をテーマとすると参画したくなるのではないか。	グループ③	
○既存データ（登記データ、人流データ、商業活動データ等）を活用して、神保町の分析が必要である。	グループ②	
○実践的に神保町のことを知ったり、学んだりすることができる機会をイベントとセットで実施していくのが良いのではないか。	グループ②	■意見交換会での対応は難しいため、今後検討
○神保町に頻繁に訪れる人、あまり神保町に訪れない人で意見を分け整理した方が良い。	グループ②	■意見交換会後のアンケートにて、居住地に関する質問項目を追加
○神保町にある大学の中で、神保町に価値を見出している研究者と連携できると良い。	グループ②	■神保町にある大学の関係者にも声がけを実施
○誰もが参画しやすいようにワンストップの窓口を設けることが必要ではないか。	グループ②	■意見交換会に関する事務局を設置して窓口を一本化
○リレー方式では届かない人達がいるため、イベントを実施して、関わりを持つことによってご意見をいただくというアイデアが出た。	杉崎委員	■今後の地域との関わりを深める中で検討